

平成30年8月29日(水)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



## 心の時間を豊かにしよう

校長 上田 祥市

肌が痛く感じるほどの暑さに、外に出るのをためらうことが多かった夏休みではなかったでしょうか。まだまだ残暑厳しい中での2学期の始まりとなりました。これから寒暖の変化で体調を崩さぬよう、ゆっくりと学校生活のリズムに戻していきたいと思えます。ご協力をよろしくお願ひします。

さて、6年生の国語の教科書に『時計の時間と心の時間』という説明文があります。「時間には、性質の違う二つの時間があり、私たちはそれらと共に生きているのです。そして、私たちはこの『心の時間』に目を向けて生きていくことが、時間と付き合っていくうえで、とても重要であると考えています。」と筆者の一川誠さんは述べています。『心の時間』とは、私たちが体感している時間のことで、いつでも、どこでも、だれにとっても同じものではなく、様々な事柄の影響を受けて進み方が変わったり、人によって感じ方が変わったりします。だから、同じ60分でも短く感じる人もいれば長く感じる人もいます。楽しいことは短く感じ、辛いことや退屈なことは長く感じますよね。

きっと夏休みの中でも様々な『心の時間』があったことでしょう。たっぷりと自由に使える時間があっても、何もやることなくだらだらと過ごしてしまった日は長く感じたでしょうし、楽しい体験はあっという間に終わってしまう感じがしたのだと思ひます。

学校は『時計の時間』を大切に生活します。決められた時刻に始まり、決められた時刻に終わることが基本です。集団生活ですから、一人一人の『心の時間』の違いを超えて、私たちが社会に関わることを可能にし、社会を成り立たせているのが『時計の時間』というわけです。

授業では、教師はいつも『時計の時間』を頭の中に入れつつ、子供の『心の時間』に目を向けます。夢中に問題を解いている時間、「わかった」と閃いて前のめりに手を挙げ発表している時間、物語の世界に入り込み、ワクワクして読み続けている時間、できるようになりたいと何度もチャレンジしている時間…子供たちが短く感じる『心の時間』をつくれたとき、教師は喜びを感じます。

しかし、最も考えなければいけないのは一人一人の状態によって『時計の時間』と『心の時間』のずれが大きくなるということです。心の状態や体調によって時間の感じ方が変わります。もともと持っている感覚の違いもあるでしょう。だからいつも『時計の時間』と一緒に活動していても『心の時間』は人それぞれだという認識が必要です。学校は集団で学びます。集団での学びは互いに影響し合い、それがプラスに作用すれば何倍にも広がったり深まったりします。子供たちの『心の時間』が豊かになるためにも、生活リズムや体調管理、安心できる居場所や落ち着いた雰囲気大切です。2学期が有意義な学びの時間となりますよう、共に考えていきましょう。

